社会学科生のための学びのガイド

2025

明治学院大学社会学部社会学科

はじめに

ご入学おめでとうございます。今、これから始まる大学生活に胸を膨らませていることと思います。社会学とはどのような学問なのか、大学とはどのような勉強をするところなのか、不安もあるかもしれません。

この冊子は、これから4年間の皆さんの日々の学習を支える「ガイド」です。

前半部分には、4年間の学習がどういう順番で進んでいくのか、社会学科の専任スタッフにはどのような先生がいるのかに関する資料が載っています。早くから自分にあった履修の計画を立て、コース選択（1年秋）、ゼミ選択（2年秋）、演習1、演習2と関心を深めていけるようにしましょう。

後半部分には、「勉強の仕方」や「資料の探し方」に関する資料をまとめました。大学での学びは、自分で本や資料を調べ、自分の考えを客観的にまとめ上げていくことが必要になります。発想の仕方や調べものをする技術、レポートや論文の書き方は、社会学科生が全員履修することになっている「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」（1年次）と「コース演習」（2年次）や、「演習1」（3年次）、「演習2」（4年次）、さらには日々の講義や社会調査関連科目の中で、詳しく学んでいくことになりますが、ぜひこの冊子を手元に置いて、早いうちから勉強やレポート作成の手助けとするようにしてください。

本ガイドの内容は、社会学部のホームページ（https://soc.meijigakuin.ac.jp/）にも記載されています。ホームページの情報は、毎年更新されますので、ぜひあわせて利用してください。先生方のさらに詳しい紹介は、『社会学とはどのような学問か』（https://soc.meijigakuin.ac.jp/gakka/about/）にも載っています。

大学での勉強の仕方に戸惑うこともあるかもしれません。この冊子を使いこなし、それぞれの学びを深めていくことを願っています。

社会学科　教員一同

目　　次

社会学科の学びの進め方 3
社会学科カリキュラム図 4
コース制とは 5
社会調査関連科目～社会調査士取得への道～ 7
専任教員紹介 9
ホームページ案内 11
日々の学びのサポートガイド 12
レジュメの書き方見本～アカデミックリテラシー～ 13
レポートの書き方ガイド～アカデミックリテラシー～ 14
レポートの書き方ガイド 2～社会学基礎演習～ 15
社会統計・社会調査データ収集ガイド～コース演習～ 19
社会学科の授業で使用する教科書および参考書の紹介 22
図書館文献検索ガイド～図書館より社会学科生のみなさんへ～ 23
課外活動の手引き～アカデミックリテラシー／社会学基礎演習～ 24
社会学部生のための文献引用の手引き 26

社会学科の学びの進め方

社会学科での 4 年間の学びはどのように進んでいくのでしょうか。

基本となるのは、「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」（1 年次）、「コース演習」「質的データ分析」「表現法演習」（2 年秋）のといった少人数クラスと、3，4 年次の「演習 1」「演習 2」（いわゆる「ゼミ」）です。これを軸に、専門科目と社会調査関連科目を計画的に履修していきましょう。

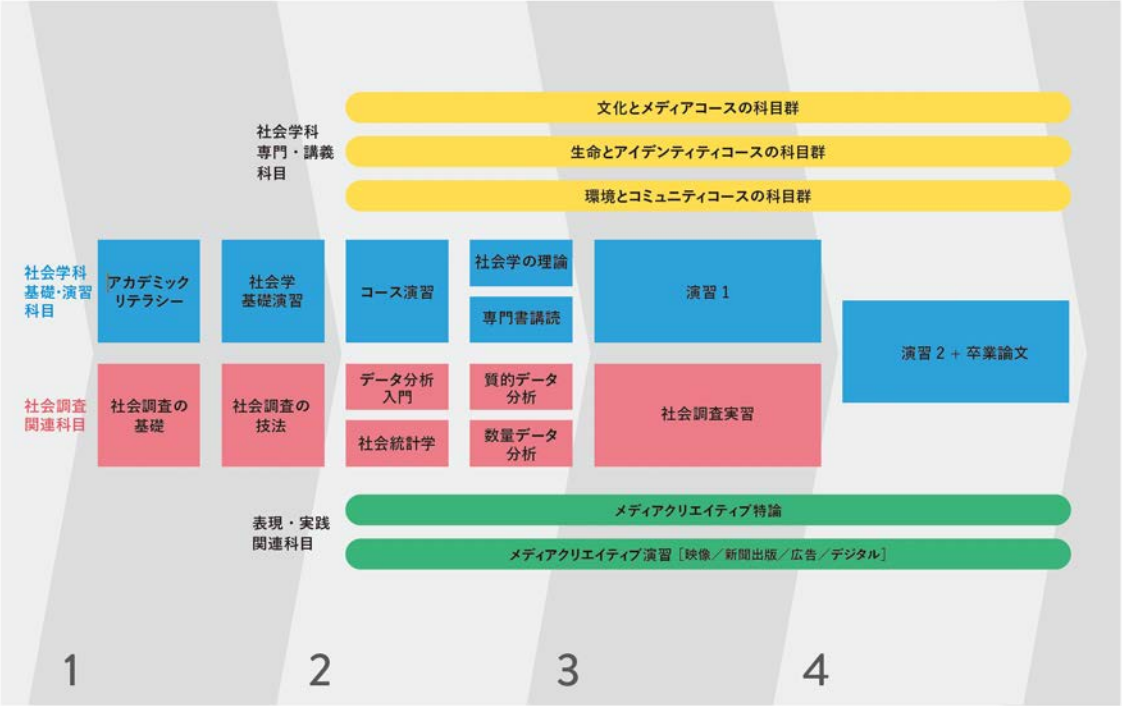
社会学科はコース制を採用しています。専門科目を履修する際には、コース科目をまず重点的にとっていくことになります。コース選択は 1 年次の秋に行われます。コース科目をとりながら、より専門的に学びたい分野を考えておくとよいでしょう。

2 年次の秋には、課題レポートと面接で、3，4 年生に所属するゼミ（演習）を決めることになります。ゼミを開講しているのは、主に専任の先生になります。ゼミが決まったら、2 年間で専門を深め、学びの集大成として卒業論文の執筆にチャレンジしてください。

また、専門科目に並行して、社会調査関連科目を履修しておくこともおすすめします。所定の科目をとると、「社会調査士」という専門資格をとる道が開かれます。また、資格を希望しない人も、卒業論文を書く際に調査法の知識が必要となることもありますから、履修を検討してみてください。

4 年間、計画的に履修を進め、学びが深まっていくことを期待します。

社会学科カリキュラム図



1）少人数クラスを軸とした体系的社会学の学び

社会学を体系的に学べるカリキュラムを整えています。1，2 年次には「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」「コース演習」等の少人数双方向型演習と「社会学の理論」等の講義で基礎を身につけ、3，4 年次には「演習 1・2」として自分の関心に沿ったゼミを選び、専門的な学びを深めます。

2）コース制がそれぞれのテーマ探しをサポート

2 年次に所属コースを選び、関心の近い仲間と知識を深め、研究テーマを絞ります。自コース科目以外も履修可能なので、関心の広がりに応じた柔軟な履修ができます。

3）フィールドワーク主義～調査の技と心を磨く

社会学の醍醐味は、現実社会と向き合い、アンケートやインタビュー、観察や資料分析を通して社会をより深く理解できるようになること。そのための専門的な社会調査の技法と倫理を、1 年次から順を追って学べます。所定の科目を履修すると社会調査協会認定の「社会調査士」資格を取得できます。

4）メディア現場のプロが表現・実践法を指導

社会現象や社会問題を見る力を表現したり実践したりする方法は、研究や論文だけではありません。放送や出版、広告などの現場に携わる外部講師から、講義や演習形式で、メディアに即して表現する力を学ぶことができます。

コース制とは

1 年生秋に「**文化とメディアコース**」「**生命とアイデンティティコース**」「**環境とコミュニティコース**」のうち、自分の興味関心に沿ってコースを選び、2 年次からはコース科目を重点的に履修します。他のコースの科目も履修できます。どのコースの科目も幅広い領域にわたって社会学の先端をカバーしています。

文化とメディアコース

メディアというとマスメディアやインターネットを思い浮かべるかもしれませんが、それが全てではありません。メディアの本来の意味は情報の伝達媒体ですので、口コミであっても立派なメディアです。

人々がどのように情報を生み出し伝達していったのかという、コミュニケーション過程とその影響は、人間の社会的活動の本質ともいえるでしょう。伝えられていった内容が、宗教や民族意識などの文化的基盤を築き、「社会」の姿を形成することもあるからです。

一方で、技術の発達によって、これまで物理的距離や社会制度の違いなどのために隔てられてきた人々や文化の交流が進むようになってきて、予想もしていなかった摩擦や問題などが発生する結果も生じました。こうした現実をどのように捉えるべきか、学んでいきます。

キーワード：宗教、エスニシティ、社会規範、コミュニケーション、情報

生命とアイデンティティコース

社会学というと、抽象的な「社会」なるものを研究対象として、個としての人間に関心が薄いと思っている人もいるかも知れません。けれども、実際には決してそんなことはありません。

むしろ、人間に関心があるからこそ、彼らがより良く生きるために「社会」はどうなっているのか、あるいはどうあるべきかに目を向けているといえます。そのため、科学技術の発展や社会制度の肥大化に伴い、一人一人の人間の姿が見えにくくなったり、その尊厳が脅かされかねなかったりする現状に対して、社会学は真剣に取り組んでいます。

人間の生の営みが、どのように「社会」から影響を受けているのか、あるいはどのように「社会」を変えていったのか、多彩な視点から学んでいきます。

キーワード：ジェンダー、セクシュアリティ、医療、健康、身体、犯罪、差別

環境とコミュニティコース

一口に「社会」といっても、意味する内容は多様ですが、変わらないのはそこに人と人の繋がりが存在していることです。たとえば、顔の見える人々で構成されたコミュニティは、私達にとって最も身近な「社会」で、家族はもちろん、住んでいる地域にも町内会などの形で存在していますし、学校や企業にも様々な形で含まれています。

一方で、全世界規模の人々のネットワークがますます拡大する時代を迎え、地球の裏側で起こったことが私たちの生活を変え、私たちの身近な行動の一つ一つが世界全体に影響を与えてしまうようになってきています。地球環境問題はその一例ですが、本来、環境とは地球規模だけで語られるものではありません。実は一人の人間を取り囲むもの、その全てが「環境」でもあります。

このように、私たちが当たり前と思っている身の回りの物事の背景の広がりや、縁遠いと思っている出来事が私たち一人一人の生活に与える影響などを、様々な視点から学んでいきます。

キーワード：社会的ネットワーク、地域、都市、教育、労働、家族

社会調査関連科目～社会調査士取得への道～

「社会調査士」資格は、2004 年にできた公的資格です。官庁・自治体などが行う各種の統計調査、企業や NPO などが行う市場調査や世論調査に必要な社会調査の知識や技術を身につけ、さらに社会学の学習にとっても重要な社会事象等を捉える能力をもった「調査の専門家」を養成するために作られた資格です。

この資格は、資格試験を受験して取得する国家資格ではありません。社会学系の大学で設置されている社会調査士指定の科目を履修し、単位を取得した学生が、日本社会学会などの学会がもとになって作られた「一般社団法人　社会調査協会」に申請すると与えられるものです。卒業時に認定料を支払って、申請手続きを行います。

社会調査士資格には、「社会調査士」（4 年制大学学部生対象）と「専門社会調査士」（大学院博士前期課程の大学院生対象）の 2 種類がありますが、社会学科の学生が履修し資格申請できるのは「社会調査士」です。「専門社会調査士」を取得するには、まず学部で「社会調査士」を取っておく必要があります。

資格申請に必要な指定の科目をすべて履修し単位を取得するには、最低でも 3 年はかかりますので、社会調査士を取ろうと考える学生は、以下の説明をよく読んで 4 月からの科目履修を行い、計画的に学習を進めてください。

社会調査士指定科目は、いずれも社会学科の卒業単位となる学科科目でもあり、社会学を学ぶ上でも必要なものですが、とくに社会調査士の資格を取ろうとする場合は、3 年次に設置されている通年科目の「社会調査実習」を履修し単位取得しなければなりません。この科目を履修するには前年度までに「社会調査の基礎」「社会調査の技法」「データ分析入門」の単位を取得している必要があります。また、卒業までに指定の 6 科目を単位取得しなければなりません。3 年次までに必要な科目を履修・単位取得できる場合は、3 年次のうちに「社会調査士キャンディデイト」の申請ができます。

社会調査士の資格の申請には、以下の A～G の指定科目を履修し単位を取得することが必要です（E と F は選択制　両方履修も可）。社会調査士資格を希望する場合は、1 年次の科目履修で春学期の【A】「社会調査の基礎」と秋学期の【B】「社会調査の技法」を必ず履修してください。この科目は社会調査の入口になる科目で、横浜キャンパスで開講されますので、1 年次に取っておかないと 2 年次以降の社会調査士科目の履修が大変になります。

表１　社会調査士指定科目

＊人数制限あり

【A】社会調査の基礎 （社会調査の基本的事項に関する科目） 2 単位 1 年生以上
社会調査の意義と諸類型に関する基本的事項を解説する科目。社会調査史、社会調査の目的、調査方法論、調査倫理、調査の種類と実例、量的調査と質的調査、統計的調査と事例研究法、 国勢調査等の公的統計、学術調査、世論調査、マーケティング・リサーチなどのほか、調査票調査やフィールドワークなど、資料やデータの収集から分析までの諸過程に関する基礎的な事項を含む。
【B】社会調査の技法 （調査設計と実施方法に関する科目） 2 単位 1 年生以上

社会調査によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していく具体的な方法を解説する科目。調査目的と調査方法、調査方法の決め方、調査企画と設計、仮説構成、対象者の選定の諸方法、サンプリング法（全数調査と標本調査、無作為抽出、標本数と誤差など）、質問文・調査票の作り方、調査の実施方法（調査票の配布・回収法、インタビューの仕方など）、調査データの整理（エディティング、コーディング、データクリーニング、フィールドノート作成、コードブック作成）など。

【C】データ分析入門（基本的な資料とデータの分析に関する科目） 2 単位 2 年生以上＊

公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識に関する科目。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方。相関係数など基礎的統計概念、因果関係と相関関係の区別、擬似相関の概念などを含む。

【D】社会統計学 （社会調査に必要な統計学に関する科目 2 単位 2 年生以上

統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識に関する科目。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎など。

【E】数量データ分析 （量的データ解析の方法に関する科目） 2 単位 2 年生以上＊

社会調査データの分析で用いる基礎的な多変量解析法について、その基本的な考え方と主要な計量モデルを解説する科目。重回帰分析を基本としながら、他の計量モデル（たとえば、分散分析、パス解析、ログリニア分析、ロジスティック回帰分析、因子分析、数量化理論、マルチレベル分析など）の中から若干のものをとりあげる。

【F】質的データ分析 （質的な分析の方法に関する科目） 2 単位 2 年生以上＊

さまざまな質的データの収集や分析方法について解説する科目。参与観察法、フィールドワーク、インタビュー等の質的調査の方法、および、ライフヒストリー分析、会話分析、ドキュメント分析、内容分析、グラウンデッドセオリー、ビジュアルデータ分析等の質的データの分析法（質的データ分析ソフトの使用方法を含む）など。

【G】社会調査実習/社会教育調査実習（社会調査の実習を中心とする科目）4 単位 3 年生以上＊

調査の企画から報告書の作成までにまたがる社会調査の全過程について、体験を通じて学習する科目で、中心となるものは量的調査あるいは質的調査のどちらでもよい。調査の企画、仮説構成、調査項目の設定、質問文・調査票の作成、対象者・地域の選定、サンプリング、調査の実施（調査票の配布・回収、面接等データ収集）、インタビューなどのフィールドワーク、フィールドノート作成、エディティング、集計、分析、仮説検証、報告書の作成。また、実際にアプリケーション・ソフトを利用した量的データの統計的分析の実習、もしくは、質的データの分析ないし事例研究を行う実習を含む。

専任教員紹介

教員氏名	主要研究テーマ	ゼミ（または授業）内容
石原 俊	グローバリゼーションとコロニアリズムの歴史社会学的研究	19 世紀以降、グローバリゼーションと植民地主義の前線に置かれた地域社会とりわけ島嶼社会の人びとが、苦闘を重ねながらどのように生きぬいてきたのか、歴史社会学的観点から考えていきます。
石原 英樹	異質な他者とのコミュニケーション・共存をめぐる課題と解決	人々の認識や行動の非合理的な側面、現代社会のアポリア（行き詰まり）を理解した上で、異質な他者（世代、階層、ジェンダー、外国ルーツなど）がコミュニケーションをとり、共存するために何が必要かを考えます。
稲葉 振一郎	倫理学・社会哲学の基礎と応用	「人間」とはいったい何か。なぜ「人間」を大切にしなければならないのか、に関する共通了解がいま大きく揺らいでいる。具体的な社会問題を通して考えます。
岩永 真治	グローバリゼーション、市民権、都市、地域、まちづくり	都市生活とはなにか、地域で生活するとはどういうことか。文化の多様性、社会参加、豊かさの問題等を考察し、だれもが参加できるまちづくりを提案していきます。
大久保 遼	メディア研究、文化社会学、映像文化論	様々なテクノロジーに媒介され、大きく変動しつつある現在の文化現象を、社会学的に分析することを目指します。
加藤 秀一	ジェンダー/セクシュアリティ、フェミニズムの理論	性現象研究。性差・性役割・性差別、性暴力、恋愛、結婚・家族、同性愛/異性愛、 生殖医療、優生思想など、「性」をめぐるあらゆる問題を根元的に考察していきます。
鬼頭 美江	対人関係における行動と心理過程に関する研究	対人関係（恋愛関係や友人関係など）の形成・維持に関わる要因、および対人関係と社会環境が相互に与える影響について考えていきます。
坂口 緑	生涯学習論、教育の公共性に関する研究	多層的な市民社会の形式に関心があります。生涯学習の理論と現場を往復し、消費と労働だけでない生き方モデルを探したいと考えています。
佐藤 正晴	日本のメディア、ジャーナリズムの歴史的考察	20 世紀後半以降の日本のメディアと大衆文化・ポピュラー文化・娯楽・芸能について、放送・出版・広告におけるジャーナリズムの観点から考察していきます。
澤野 雅樹	広義の侵犯行為の事例を通じて、法と社会の論理を考察	法と侵犯の研究。社会を構成し作動させる法と、社会の中で制定・施行される法とを区別し、主に前者に関わる逸脱行為を扱いながら、社会の根源にまで迫っていきます。
柘植 あづみ	医療・生命科学技術の課題を文化・ 社会的文脈から考察	現代医療の医療人類学的研究。生殖医療技術・生命科学技術と文化・社会的諸要因との相関関係を事例研究によって検討していきます。

仲　修平	社会階層論	研究テーマは、職業や仕事の観点から人びとの働き方や暮らし方の形成を量的・質的調査によって考察することです。この点を具体的な現象を通して考えていきます。
野沢　慎司	現代の家族など人間関係ネットワークを幅広く考察	現代家族と社会的ネットワークの研究。離婚・再婚後の家族など多様な家族を取り上げ、親族・友人・支援団体などと関連づけて考察します。
半澤　誠司	コンテンツ産業の立地、取引関係、労働市場などの研究	文化的要素と経済的要素の双方が重要なコンテンツ産業を対象に、主に企業間関係に力点を置きながら、文化と経済の関係性への理解を深めます。
藤川　賢	社会学から地域開発と環境問題を考察	環境問題研究。現代社会の基本的矛盾を象徴する環境問題を、社会学的に地域に即して分析し、その解決法を考えていきます。
松波　康男	東アフリカの農村社会にみられる儀礼についての人類学的研究	エスニシティと社会をめぐる諸課題を取り上げ、それに関わるいかなる学説や理論がこれまで獲得され、どのような課題が積み残されてきたかについて掘り下げます。自身が東アフリカに調査地を持つ人類学者であるため、授業やゼミで取り上げる事例はサハラ以南アフリカとなることが多いです。
元森　絵里子	子ども・教育・社会をめぐる言説の歴史的・理論的考察	教育や子どもに関する言説（議論）の歴史的変容を、そのメカニズムとともに分析します。言説に関する社会学的視角についても考えていきます。

2025 年 4 月 1 日現在(50 音順)

ホームページ案内

○社会学部オリジナルホームページ　https://soc.meijigakuin.ac.jp/

○社会学科オリジナルサイト https://soc.meijigakuin.ac.jp/gakka/

社会学科の最新ニュースや、教員やゼミの情報、本ガイドの PDF 版など学びに必要な資料が入手できます。ぜひ活用しましょう。本 HP から、さらに以下の特別サイトに進めます。

- 社会学科のカリキュラムをわかりやすく説明するスペシャルコンテンツ「社会学とは」「社会学をつかう」「フィールドワーク主義」「顔の見える少人数クラス」の 3 本柱からなる基本カリキュラムの説明です。履修プランを立てるために、早めに全部読んでおくとよいでしょう。
- ブログ「日々の社会学科」
  社会学科の行事報告やゼミや教員の活動など、社会学科がわかるような記事をリアルタイムで発信していきます。先輩の活動からこれからの学びのヒントが得られますし、もしかすると自分が登場してしまうことも。ぜひチェックしてください！

○社会学部 Twitter アカウント　@MGU_SOC

日々の社会学科更新情報などをつぶやきます。

日々の学びのサポートガイド

みなさんは、これから卒業まで、たくさんの調べ物をして、たくさん発表をしたりレポートを書いたりすることになります。

ここでは、まず、レジュメとレポートの書き方、考え方の基本がわかるように、1 年次の「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」、2 年次の「コース演習」の教材を掲載します。もちろん、個々のレポートの内容や形式、分量は、授業や先生によって異なる場合がありますから、その都度指示を確認してください。しかし、準備の仕方や執筆の仕方の考え方の「基本」はこのガイドに凝縮されているはずです。

具体的に「先行研究調べ」や「事実調べ」をするためには、図書館やインターネットサイトを活用しましょう。「図書館文献検索ガイド」（図書館作成）と「社会統計・社会調査データ収集ガイド」（2 年次コース演習の資料）を載せておきます。なお、「アカデミックリテラシー」と「社会学基礎演習」では簡単な課外活動をしてもらいますので、その際の手引きも載せておきます。より専門的な調査の技法は、ぜひ社会調査関連科目を履修して身につけてください。

最後に、レポートで忘れてはならないのは、自分の考え・文章と他人の考え・文章を区別することです。そのための「引用」という手続きについて、「社会学部生のための文献引用の手引き」を最後に掲載しました。卒論を書きあげるまで、社会学科で文章を書く際の最低限の「マナー」になりますから、早いうちに慣れてしまいましょう。

レジュメの書き方サンプル～アカデミックリテラシー～

日付と名前が必須。

何に関するレジュメかを明記。ここでは科目名。

20XX 年 X 月 XX 日

報告者：23SG＊＊ 名 前

対象となる資料名を明記。本書の各章の執筆者は、著者紹介（p.v）を参照。

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志, 2019, 序章「新しい社会学のために」, 長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志編『社会学（新版）』有斐閣, pp.1-16.

章、節、小見出しなどは必ず書く。頁（ページ）も必須。

1. 知の翼としての社会学（pp.2-4）

▸違いからの出発

- **社会とは・・・異なる人間たちが、限られた空間のなかでともに住み合っていくことを可能にする知恵あるいは仕掛けの総体。**
- 社会は目に見えない。しかし社会はたしかにある。
- 社会が…「やせほそっていく」かのような現実…格差や孤立、リスクや監視、不信や不安。
- 他方で社会は厚みと深さと多様性を増している…リアルとヴァーチャル、ナショナルとトランスナショナル、システムと環境、生命と非生命、人新世[1]。
- Q「社会的な問題を『心理』的な用語で説明する場面」(p.3)を具体的にいうと？

重要そうな文章や言葉は**太字**で。

▸「私」から始まる社会の形

- 社会学は「自分」探しの手段ではけっしてない。しかし、私＝「自分」を通過しない社会はリアルなものとはなりえない。

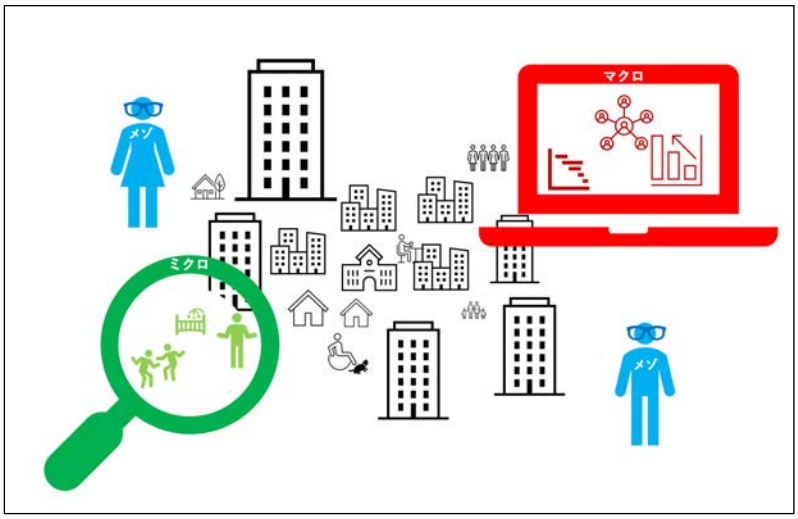
ふと浮かんだ疑問も忘れずにメモ。

2. 社会学の世界への誘い（pp. 4 - 9）

▸行為と共同性―「つながり」の仕掛けを知る

- 第 1 部は**行為と共同性**。社会学の大きな特色は、私たちが暮らす日常生活の世界と何層にもそれを取り巻く構造の世界とを、つねに連関し合うものとして考える点…**微視的視点（ミクロ）**と**巨視的視点（マクロ）**のリンク。現実には、それらをつなぐ**中間（メゾ）**こそが大きなカギを握る。

図解もおすすめ！　これは ppt に絵を描いて、スクショをとり、貼りつけました。



[1] 人という生物の影響抜きに地球の運命をもはや語れない現在という意味（教科書参照）。

図１　社会学的視点のイメージ

・　第 1 章では、社会学という**学問の成り立ち**を考える。例）電車の車内をフィールドワーク。第 2 章では、**相互行為**について理解を深める。第 3 章では、**秩序**というものが維持されていくメカニズムを考える。例）カップルの間や経営方針の意思決定の現場にもある、**権力**。
・　第 4 章では、組織とネットワークに注目する。第 5 章では、メディアによって媒介される間接的な相互行為について学ぶ。

▸時間・空間・近代―再帰的営みの軌跡をたどる

・　第 2 部は**時間・空間・近代**。社会がこれまでたどった経路を振り返る。
・　学としての社会学は、近代に誕生し、その自己認識として発展を遂げてきた。**「大きな物語」の終焉**→「進歩」や「成長」といったわかりやすい物語による理解の困難。
・　第 6 章では、歴史の社会学を構想する。第 7 章では、空間と場所をテーマとする。第 8 章では、近代性の特質を考察する。第 9 章では、医療と福祉における明暗と、当事者を重視する**自己決定という思想**の必要性と危うさに視点を向けていく。第 10 章では、国家とグローバリゼーションについて考える。

用語説明には脚注が便利！

・　第 2 部のキーワードは、**再帰性**[2]。
・　近代とは、人間が自ら作り上げる社会に介入しそれを改変することを通じて、「進歩」を獲得しようとした多様な実践の軌跡でもあった。

▸差異と構造化―困難と創発の最前線

・　第 3 部は**差異と構造化**。
・　第 11 章では、家族も時代と文化に規定された限定的存在であることを確認する。第 12 章では、性を多様性・多層性といった差異に満ちたものとしてとらえなければならなくなっていることを示す。第 13 章では、近代社会とは「移動の時代」でもあったことを確認しながら、異なる人間たちの関係創造の過程を境界という視点から考える。第 14 章では、社会の生産／再生産、構造化／主体化といった大局的視点をふまえながら、格差と階層化というテーマに取り組む。第 15 章では、文化が制度・言説・行為が交錯する亀裂に表れ、人びとをその差異性によって統合と排除の機能にまきこみ再生産していく様相に焦点をあてる。第 16 章では、新しい公共圏、社会構想の課題について論じる。

3. テキストの冒険（pp.9-16）

・・・（省略）・・・

必ず考察を付ける。自分なりにテキストを理解するためにも、それを読んで積極的に自分の考えを広げてみよう。

〇考察

▸社会学は、目に見えない秩序について考察する学問ではないかと考えた。また現代は混沌の時期にあり、「構造」という視点そのものが問い直されているらしいとわかった。

〇論点

▸「私を起点とする社会学には、狭い世界に閉じこもってしまう危険性がつねにつきまとう」（p.4）とは、具体的にはどのようなことなのか？
▸アカリテのクラスをミクロ・メゾ・マクロの視点（p.4）で観察すると、どう見えるだろう？

必ず論点も付ける。クラスで議論をするための出発点なので、色々な意見が出やすい論点を考えてみよう。

[2] 再帰性とは、動作主が自己を含めて何らかの行為・指示・言及の対象とする性質（デジタル大辞泉参照）。

レポートの書き方ガイド～アカデミックリテラシー～

1. レポートの書き方――準備編

● 大学で求められるレポート（および論文）とは、自分の意見を「客観的に」述べる文章です。「客観的に」というのがポイントで、思い込みや感想だけを書き連ねても、レポートにはならないことに注意してください。小説のような説明不足気味の詩的表現も、唐突な決意表明で終わる投書欄向けの作文も、残念ながらレポートという場ではふさわしくありません。では何に注意すればいいのでしょうか。ポイントは二つ。ひとつは、「先行研究調べ」、もうひとつは「事実集め」です。

● 「先行研究調べ」とは、自分が書こうと思っているテーマについて、これまでどのようなことが言われてきたのかを調べることです。専門書や論文を読み、気づいたことを付箋紙やノートにメモしましょう。

● 「事実集め」とは、自分が書こうと思っているテーマについて、どのような具体的事実があるのかを調べることです。統計資料や新聞記事、白書、議事録、ルポルタージュを検索しましょう。いつでもアクセスできそうなサイトであっても、重要な図表はプリントアウトをして手元に置いておきましょう。アクセスした日付も忘れずにメモしましょう。

● レポートを書き始める前に、次の(1)～(3)を準備しましょう。(1)関心のある領域について最低2点の文献を読み、そこに述べられていることを整理する。(2)統計資料等で基本的な事実を確認する。そして(3)自分がレポートで書きたい「テーマ」を絞り込む。準備ができたらさっそく書き始めましょう。

2. レポートの書き方――執筆編

● レポートの構成要素はシンプルです。「序論・本論・結論」。これに尽きます。けれどもその中身は？　順に押さえるべきポイントをご紹介しましょう。

(1)序論…テーマ設定の理由を書こう

・テーマとは、問いである

「テーマ」をどうやって絞り込むのか。これは大きな問題です。コツは、疑問文に変換すること。例)「〇〇について」→「なぜ〇〇は××なのか」あるいは「どのようにして〇〇は××となったのか」。漠然と〇〇だった「テーマ」を××という別の観点から疑ってみると、何を書きたかったのかが分かりやすくなります。レポートの冒頭に、このテーマを選んだ理由を書きましょう。

(2)本論…先行研究調べ、仮説、論証を書こう

・先行研究調べとは、比べることである

あなたがこれから書こうとしているテーマは、たとえものすごく独創的なもののように思えたとしても、他の誰かがすでに考察し終えた問題だったりすることがあります。がっかりする必要はありません。その人たちの力を大いに借りましょう（Google Scholar 風に言えば「巨人の肩の上

に立つ」)。先行研究調べとは、「巨人たち」の知見を借りてきて比べることです。コツは、異同を見つけ、自分の立ち位置を示すこと。この部分の記述があれば、間違いなくアカデミックな文章に仕上がります。

・仮説とは、さしあたりの答えである

ここであなたの頭脳の出番です。仮説を自由に考えましょう。何を考えるのか。さきほど「テーマ」にした「疑問文」に対する答えです。さしあたりの答えでかまいません。こうなのではないかと思ったことを「仮説」とし、先へ進みましょう。

・論証とは、持論の正当化である

レポートのメインとなるのは、この部分。仮説に対する論証です。レポートは、自分の意見を「客観的に」述べる文章です。準備で調べたデータが手元にありますね？　ほら、こんなデータが、とおおっぴらに見せびらかしましょう。準備で文献を読んだ時のメモが手元にありますね？　ほら、この人だってこう言っている、と文献を引用し、他人を味方に引き入れましょう。そして別のパターンでも攻め込みましょう。「この人はこう言っているけれども、あの人はこう言っている」。いい技ですが、とっておきはこれ。「この人はもっともらしくこう言っているけれども、データを見ると実は疑わしい」の技です。文献を読み、データを調べ、引用し、多様な技で持論を正当化していきましょう。

(3) 結論…結論を書こう

・結論とは答えである

仮説を検証した結果、結局どうだったのかの答えを文章にしましょう。

3. 引用について

● レポートや論文で、自分の意見を客観的に述べるためには、根拠となる証拠を示す必要があります。それが引用です。

● 何より大事なのは、他人の考えや文章を利用する場合は、それが自分の考えや文章ではないということを明記するということです。ちなみに、プロの物書きや研究者がこの点を怠ると「盗作」や「盗用」の汚名に塗れ、作家生命ないし研究者生命が断たれるほど重大なことです。学生も同様です。本学でも「盗用」に対しては、厳しい処分が科されます。

● 引用の形式は、「社会学部生のための文献引用の手引き」を必ず参照してください。

● その他の細かい作法については、クラスの担当教員にどんどん質問してください。

レポートの書き方ガイド２～社会学基礎演習～

ダメレポートを書かないために～改めてレポートとは何か～

- 序論（第１章）→テーマ設定をする

・論じたいテーマを明確にする

×「○○について」（例：いじめについて）

○「○○についての××論について」「××から見る○○について」（例：いじめが増加しているという議論について、ラベリング論から見るいじめ問題について）

・そのテーマを論じるべきだと思った理由を述べる

×着想のきっかけ・個人の思いだけを書く（例：「○○が好きだから」「○○が気になったから」）

○きっかけが個人的なものでもそうでなくても、それが社会学的な考察の対象になりそうだと思った理由を述べる　　参考）「社会学的想像力」（ライト・ミルズ）

※社会的な問題、複数の人々に関わることをテーマに選ぶ

※執筆の際のキーワードを 3 つ以上考えてみて、1 つは社会学のテキストに出てきそうな用語にする

・テーマを「問い」の形にする→疑問文の形にする　（Yes/No or 5W1H）

（例：いじめは増加していないのではないか、いじめは本当に増加しているのか、いじめ問題をラベリング論から見るとどうなるか）

→問うに値する問いを立てられるかどうかで、レポートの成否が半分以上決まる

- 本論（第 2～4 章）→「証拠」を示しながら、「答え」に向けての論を組み立てる

・各章が「問い」から「答え」に至るのに必要不可欠なパーツであるべき

・「証拠」＝①先行研究（参考文献や公開されている統計資料）からの引用、②自分で社会調査（アンケートやインタビューなど）をして得たデータ

・証拠をあげながら、それを自分なりに検討し、結論へと議論を組み立てていく

・論理的に文章を組み立てることも重要

- 結論（第 5 章）→自分が序章に掲げた「問い」への筆者なりの「答え」を書く

※「問い」に対応した「答え」にたどりつかないということは、レポートがどこかでねじ曲がったということ！→「問い」を立て直す？途中の論を考え直す？

※「答え」とは、問題に対する改善策ではない。自分が立てた「問い」に対応していることが重要。（例：いじめは増加していないことがわかった、いじめに関するラベリング論は～、～、～の 3 つの立場があることがわかった）※当然、問いが「いじめ問題をどうしたら解決できるのか」だったなら、自分なりにたどりついた解決策が「答え」になるはず

×唐突な精神論で締めくくる【最悪！】←これは、「問い」を立てて「答え」を導くという学問的作業とは無関係（例：ひとりひとりが努力していかなければならない、私も気をつけていきたい）

オプションで、今後の課題や、判明しなかったことなどを書くのは OK

- 参考文献→「社会学部生のための文献引用の手引き」に準じてきちんと書く
  - ・引用の仕方がいい加減なレポートの評価は下がる
  - ・盗用（いわゆるコピペ）が判明した場合、試験のカンニングに準じた処分が下されることがある

社会統計・社会調査データ収集ガイド～コース演習～

◆　地域や都市の基本状況を知るのには、まず五大センサス（国勢調査、工業統計調査、商業統計表、農林業センサス、経済センサス）を調べます ◆　分野によって、ここからスタートするという基本的な調査があります ◆　事実を調べる統計だけでなく、意識や行動を聞いた意識調査を利用することも多いです

※インターネットの URL は頻繁に変わるので、ここにはサイトの名前のみ載せておきます。検索サイトで検索して URL を探してください。

(1) 政府統計

政府統計の総合窓口「e-Stat」

・　サイト内の「統計関係リンク」で各府省庁の統計の概要がつかめるほか、検索機能などが充実しているので、ぜひ 1 度見ておくこと

※　以下、各府省庁で集めている情報をあげるので、関心のある分野の省庁ページの「統計情報」のページを見てみること（すべて e-Stat からもリンクされている）

※　各省庁の「白書」も参考になる（新しいものは HP 上から閲覧できる）

内閣府　（男女共同参画、青少年、少子高齢化、各種世論調査）

（有名な調査）国民生活に関する世論調査、社会意識に関する世論調査など

総務省　（基本的な社会調査類、通信・情報）

（有名な調査）国勢調査、労働力調査、経済センサス、住民基本台帳人口移動報告年報、サービス産業動向調査、住宅統計調査、人口推計、家計調査、社会生活基本調査、通信・放送産業基本調査、通信産業実態調査、放送番組制作業実態調査、通信利用動向調査など

警察庁　（警察、犯罪、少年非行）

厚生労働省（人口・世帯、保健・医療、福祉、社会保障、賃金、労働・雇用等）

（有名な調査）人口動態調査、21 世紀出生児縦断調査、21 世紀成年者縦断調査、人口移動調査、出生動向基本調査、毎月勤労統計調査、若年者雇用実態調査など）

国立社会保障・人口問題研究所　（人口・世帯、結婚・出産・離婚、移動、社会保障）

文部科学省　（学校教育、社会教育、文化・スポーツ、科学技術）

（有名な調査）学校基本調査など

環境省（環境、公害）

経済産業省（経済活動、各種産業、消費）
（有名な調査）工業統計調査、商業統計表、特定サービス産業実態調査報告書など

資源エネルギー庁（環境、エネルギー問題）

農林水産省（食料、農林水産業）
（有名な調査）農林業センサスなど

国土交通省（土地、建築、国土、交通、運輸・物流）
（有名な調査）大都市交通センサス、物流センサス、貨物地域流動調査、旅客地域流動調査、土地基本調査など

法務省（法律・司法、犯罪・矯正、訴訟、登記、戸籍・出入国管理）

(2) その他 Web 上で閲覧できる重要な調査等

JGSS

- 2000 年からほぼ毎年実施されている多様な意識・行動項目を盛り込んだ全国調査
- 大阪商業大学 JGSS 研究センターにてデータを公開、学部生（卒論など）やそれ以外の授業での利用も可能。これまでの成果である研究論文集がダウンロードして読める

全国家族調査 National Family Research of Japan （NFRJ）

- 日本家族社会学会が 1998 年以降 4 回実施している全国家族調査
- HP で過去の調査報告書の内容すべてをダウンロードして読める。公開データだが、利用は大学院生以上

財団法人家計経済研究所

- 消費生活に関するパネル調査、家計調査ほかが閲覧できる

ベネッセ教育総合研究所

- メニューの「調査・研究データ」から、ベネッセで行った調査（子ども、教育関係）へアクセスできる

東京大学社会科学研究所　附属社会調査・データアーカイブ研究センター

- 統計調査、社会調査の個票データを収集・保管し、学術目的での二次的な利用のために提供（データ申請は、大学又は公的研究機関の研究者、教員の指導を受けた大学院生のみ可能だが、各種データの検索と概略の閲覧ができる）

⑶ そのほか役立つサイト名

①本

・ CiNii Books

国内の大学や研究機関の図書館の書籍の横断検索、明治期以降の書籍の情報収集にも

・ Bookplus（学内）　昭和以降の国内刊行図書を目次など内容からも検索できる

・ 国立国会図書館 NDL-OPAC

唯一の国立図書館として、納本制度に基づき蔵書を構築（日本最大の図書館)、貸出不可

②インターネット書籍検索・販売（流通状況の把握にも）

・ Books.or.jp

日本書籍出版協会「データベース日本書籍総目録」中、現在購入可能な既刊分を検索可

・ Amazon

・ 紀伊国屋 Book Web

・ 大学生協書籍インターネットサービス

組合員ならば割引で購入可

③論文・専門的な書物

・ 社会学文献情報データベース　日本社会学会に登録された雑誌論文や著作の情報検索

・ J-STAGE　日本社会学会の『社会学評論』等メジャーな学会誌の論文が検索・閲覧可

・ 社会老年学文献データベース　DiaL　社会老年学に関する文献が検索・閲覧可

④統計以外によく参考にするデータ

・ 国立国会図書館　近代デジタルライブラリー　明治・大正期の書籍をデジタル閲覧できる

・ 政策情報プラットホーム　政府機関および政府関係機関等に所在する情報のデータベース

・ ソキウス

野村一夫さん（國學院大學）の社会学系サイト。社会学全般の情報・読み物が充実

迷ったときは・・・

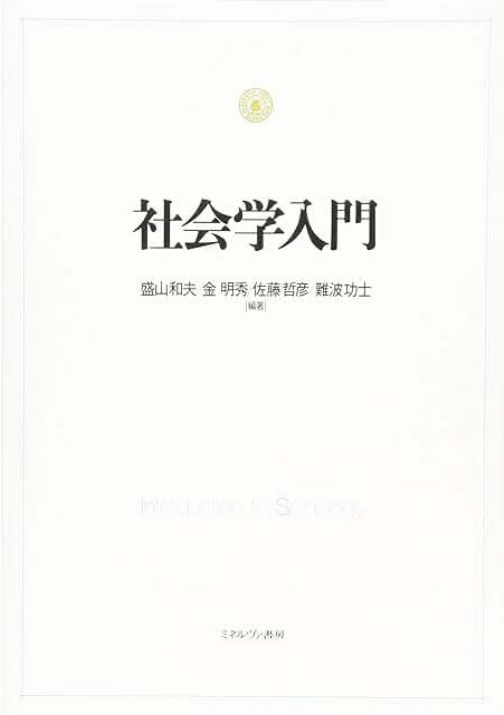
・ 明治学院大学図書館とそのホームページを活用しよう！

・ 国立国会図書館の「リサーチ・ナビ」（資料探しの入り口）も非常に参考になる！

※ 学内のみで検索できるデータベースには、情報センターで SSL-VPN というサービスに申し込むことで学外からアクセスする権利を得られます。ぜひ申し込んで利用しましょう。

社会学科の授業で使用する教科書および参考書の紹介

教科書（アカデミックリテラシー，社会学基礎演習，他）



盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士編著
『社会学入門』ミネルヴァ書房 2017 年

教科書・参考書（社会調査の基礎，社会調査の技法，データ分析入門，数量データ分析，他）

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編著
『最新・社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 2023 年

図書館文献検索ガイド～図書館より社会学科生のみなさんへ～

教室が研究・学習の第一歩だとすると、図書館は第二の教室です。学生のみなさんが本や雑誌論文を見つけ、図書館員と相談し、調査を行い、レポートや論文を書き、学ぶ場所です。グループでディスカッションや発表の準備ができる場所もあります。図書館を大いに利用し、社会へ出ても通用する情報リテラシーを身につけてください。

■図書館ハンドブック　～明学生のための図書館 100%活用ガイド～

基本的な資料の探し方から専門的な資料の探し方・使い方まで、様々なシーンで活用できる内容になっています。レポートや論文を執筆するとき、学生のみなさんがアカデミックな作業のプロセスを一歩一歩進んでいけるように、学習のサポートツールとなるように作りました。

【図書館ハンドブック】

ポートヘボン＞学生生活＞図書館＞図書館ハンドブック

◆お気に入りに入れて、PC・携帯からいつでもアクセスください！

【MG 教務アプリ】

MG 教務アプリ＞その他＞学内リンク集＞図書館ハンドブック

■図書館利用案内動画

蔵書の検索方法や論文の探しかたなど、レポートや授業課題に役立つご案内を動画でいつでも視聴できます。ぜひ活用してください。

【利用案内動画】

ポートヘボン＞学生生活＞図書館＞利用案内動画

■図書館ポータル　MyLibrary

MyLibrary とは、明治学院大学図書館が提供する図書館サービスポータルサイトです。図書の予約、他キャンパスからの取り寄せ、返却期限の延長、購入希望や文献複写／貸借の申込みをオンラインでできるほか、新着情報を入手したり、気になった本にブックマークをつけたりすることもできます。ポートヘボン、明治学院大学図書館蔵書検索（OPAC）トップ、図書館 Web サイトのトップにログイン画面へのリンクがあります。ポートヘボンからはログインなしでアクセスできます。それ以外はポートヘボンと同じ ID／パスワードでログインしてください。

■図書館 Web サイト

図書館 Web サイトは、開館カレンダー、最新ニュース、利用案内や蔵書・情報検索など、利用目的に応じて必要な情報へアクセスできます。図書館が行っている学習支援活動のお知らせやオンライン資料の利用方法など、学習に役立つ情報も掲載しています。「図書館について」のページでは、図書館のイベント情報も紹介しています。ぜひ注目してください！

課外活動の手引き～アカデミックリテラシー／社会学基礎演習～

明治学院大学社会学部社会学科
「アカデミックリテラシー」「社会学基礎演習」

課外活動のてびき

危ない目に合わない
人に迷惑をかけない
怪しまれない

社会について学ぶには、社会を知る必要があります。社会調査にはもちろんいくつものルールがあり、そのルールについては「社会調査の基礎」（1 年次春学期）から始まる一連の社会調査関連科目の中で、少しずつ身に着けていっていただきます。ですから、本格的に社会調査を実習するのは 3 年生になってからです。

ただ、ちょっと視点を変えてみたり、今まで見過ごしていたものに注意したりするだけでも、新たな発見が生まれるかもしれません。そこで、2013 年度から一年次の科目において、個人またはグループで大学の外に出て、街を新たな視点で観察してみる課外活動を行うことにしました。

社会調査に向けた基礎的な注意事項を学ぶ前に行う課外活動ですので、「データ分析入門」や「社会調査実習」以上に、慎重に行動していただかなくてはいけません（万一トラブルが生じた場合、すぐに課外活動が停止になってしまう恐れがあります）。

課外活動を行うにあたっては、次のことにくれぐれも気を付けてください

法律や交通ルール、立ち入り禁止の規制などを守るのは当然で、大学生としてのマナーが普段以上に重要なことも言うまでもありません。これについては、書かなくても大丈夫ですね？？？

「危険なところに近づかない」

…写真を撮るために車道に出ていく、普段なら近寄らない怪しい区画に踏み込んでみる、夜の街を歩いてみる、などの行動はしないでください。大事なのは、「いかにも珍しそうな冒険」ではなく、「日常の街を新たに観ること」です。

「人に迷惑をかけない」

…街の人に話しかける、並んで歩いて通行の妨げになる、家族や友達に協力を依頼する、などの行動は慎みましょう。学校の課題だからというのは、誰かに迷惑をかけたり、頼みごとをしたりす

る理由にはなりません。（なお、他人への依頼については、社会調査関連科目の中で学びます。）

「怪しまれない」

…これが一番難しいのです。普段だったら大学生が 2，3 人しゃべりながら歩いていても、街の人は気にしません。でも、「あれ、この町のことを言っているみたいだ」と気が付いたら、「悪口じゃないか？」「何か、いたずらを？」と気になるかもしれません？　ですから、課外活動の際には、コンビニや道路などでのおしゃべりは、しないでください。そのほか、お店、学校、人家などを覗き込む、写真を撮る、近所の人しか通らない路地に入り込む、などの行為も怪しまれるもとになります。

「トラブル（かもしれないこと）にあったら」

…　怪しまれた・怒られた場合　　まずは素直に謝りましょう。課外活動の趣旨をきちんと説明して、納得していただければ問題ありません。重ねてお詫びして、帰りましょう。どうしても納得していただけない場合、本学社会学部の連絡先をお知らせし、よほどの場合には、その場で連絡してください。なお、自分の電話番号や実家住所など、個人情報を伝えるのは避けてください。

…　親切に話しかけられた場合　　この場合は、むげに断らず、有効な情報は教えていただきましょう。ただし、個人宅などにあがること、どこかについていくこと、個人情報を教えることは避けてください。「課外活動として、学校から禁止されている」と伝えていただいて結構です。

…　身の危険を感じた場合　　とにかく安全なところまで逃げましょう。その後、速やかに担当教員に連絡してください。

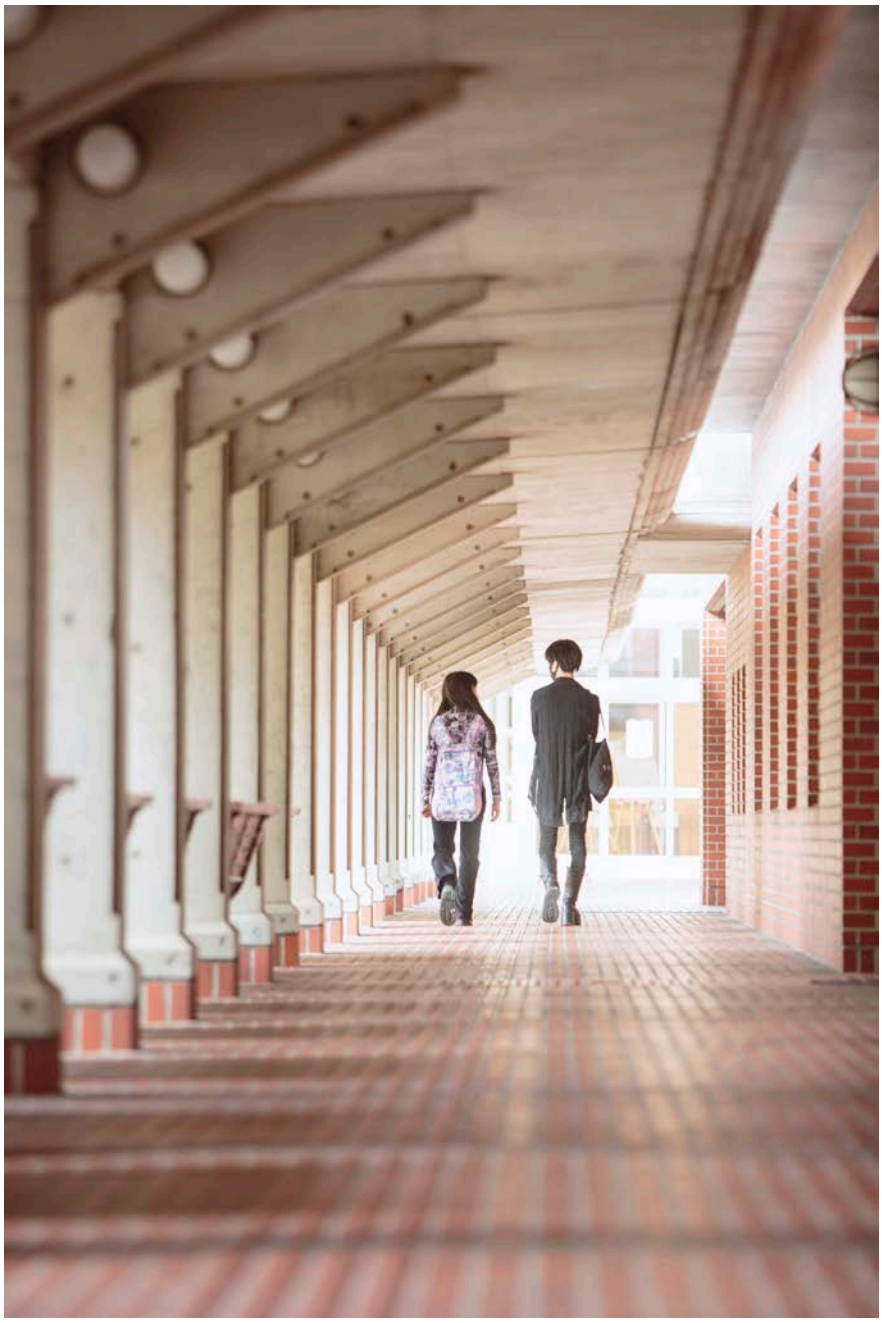
「緊急時の連絡先」

明治学院大学　社会学部共同研究室　　０３－５４２１－５５７０
　　社会調査実習室　　０３－５４２１－５３４９

社会学部生のための文献引用の手引き

次のページから始まる「社会学部生のための文献引用の手引」は、社会学部の専門科目の課題レポートから卒業論文まで使う、引用の手続きをまとめたものです。

卒業までのすべてのレポートや論文は、この手引きの引用手続きのいずれかの方法を遵守して作成してもらいますので、ぜひ早いうちから慣れてしまいましょう。同じものは、いつでも学部ホームページで見ることができます。



社会学部生のための文献引用の手引き

三大原則

1. レポート・論文作成時の盗作厳禁

2. 自分の文章中で、文献や資料を参考にした箇所は明示すべし

3. 参考にした文献や資料は明記すべし

レポート・論文作成の際には、この三大原則に基づいた文献引用のルールを守らねばならない。守らない場合には、単位を落とす・評価が下がるなどの不利益を被っても文句は言えない。

引用には、元文献の記述をカッコ（「」）でくくってそのまま用いる**「直接引用」**と、元文献の記述を自分なりにまとめた**「間接引用」**がある。「間接引用」であっても、直接引用と同じく、参考にした文献の情報を本文中に必ず表示しなければいけない。

本文中に文献情報を表示する方式（文献挙示方式）には、大きく分けて次の 2 つがある。

Ⅰ.注を付ける方式

Ⅱ.簡略情報を表示する方式

担当教員から特別の指示がない限り、社会学部生は原則としてこのどちらかの方式に従わなければならない（教養科目等で別の方式を習った場合も、社会学部では本手引きに従うこと)。以下では、その 2 つの方式をそれぞれ具体的に説明する。また、両方の方式に共通して守らなければいけない原則も最後に説明する。

Ⅰ. 注を付ける方式

(1)基本的な考え方

引用・参照文献についての情報（文献注）と本文の補足説明（説明注）を一括して表す。

(2)実際の手順

手順 1：引用箇所の直後に、上付き 1/4 サイズの丸括弧数字（「(1)」など）で注をつける。

・・・橋爪大三郎によれば、「愛ゆえの結婚」というドグマが成立するためには、第一に、ピューリタン的な性愛倫理が成立し、そのうえで、第二に、内面的な主体性が承認されなくてはならなかった(1)。・・・・・・・・・ミシェル・フーコーによればこの孤立化の積極的な効用に関して、トクヴィルは次のように主張しているという。「孤立状態に投げ込まれると受刑者は反省する。自分の犯罪にただひとりで直面すると、その犯罪を憎むことを学ぶのであって、その塊が悪によって無感覚になっていなければ、いずれ後悔がその塊を覆うようになるのは孤立状態においてである」(2)。

手順2：レポートの巻末に、各々の注に対応する中身（文献情報または本文の補足説明）を一覧表にして記す。

注
(1) 橋爪大三郎『性愛論』岩波書店，1995 年，pp.115-185.
(2) フーコー, M. 『監獄の誕生：監視と処罰』（田村俶訳）新潮社，1977 年，p.236.
(3) ここでいう××とは･･･
(4) 前掲(1)，p.120.

補足：①注の番号は通し番号にする。
②注は番号ごとに改行する。
③注(3)のようにして、論旨に直接関係はないが、本文でふれた事項をさらに補足説明する場合にも注は用いられる（説明注）。
④同一文献を再度引用する場合は、注(4)にあるように「前掲(1)，p.120」のように記す。これは、「注(1)で表示した文献の120ページを参考にした」、という意味である。

(3)注の中での文献情報表示形式

文献と一口にいっても、色々な種類があり、それぞれ示すべき情報が微妙に違う。以下の原則に従い、過不足なく文献情報を表示しなければならない。

※著者が複数いる場合、記載された順に書く

※全体の内容を参考にした場合は、引用頁の記載は要らない

※該当頁は「p. ○」または「pp. ○-○」（複数頁にまたがる場合）と表記する

①**日本語単行本**：著者名『書名：副題』出版社名，出版年+年，p.+引用頁.

例）

小熊英二『単一民族神話の起源：〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社，1995 年.

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之『社会学』有斐閣，2007 年，p.5.

②**日本語編書全体**：編者名+編『書名』出版社名，出版年+年.

例）

舩橋晴俊編『講座環境社会学 2：加害・被害と解決過程』有斐閣，2001 年.

③**日本語編書の一部**：著者名「論文題名」，編者名+編『書名』出版社名，出版年+年，pp.+論文の初頁-終頁（p.+引用頁）.

例）

船橋晴俊「環境問題の未来と社会変動：社会の自己破壊性と自己組織性」，船橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学 12：環境』東京大学出版会，1998 年，pp.191-224（p.191）.

④**翻訳書**：著者名『訳書名』（訳者名+訳）出版社名，翻訳の出版年+年，p.+引用頁.

※著者名は、ファミリーネーム，ファーストネーム・ミドルネームのイニシャル．の順に並べる（以下同様）。

例）

フロム, E.『自由からの逃走』（日高六郎訳）東京創元社，1951 年，p.256.

⑤**日本語雑誌論文**：著者名「論文題名」『雑誌名』巻(号)，出版年+年，pp.+論文の初頁-終頁（p.+引用頁）.

例）

山本泰「マイノリティと社会の再生産」『社会学評論』44(3)，1993 年，pp.262-281（p.270）.

⑥**翻訳論文**：著者名「翻訳論文の題名」（訳者名），論文の所収された雑誌や単行本の情報（①～⑤参照），pp.+論文の初頁-終頁（p.+引用頁).

例）

マッカーシー, J. M.・メイヤー, N. Z.「社会運動の合理的理論」（片桐新自訳），塩原勉編『資源動員と組織戦略：運動論の新パラダイム』新曜社，1989 年，pp. 21-58（p. 23）.

⑦**外国語単行本**：著者名,_*書名*,_出版社名,_出版年,_pp。+引用頁.

※「_」は半角スペース（以下同じ）

例）

Parsons, T., *The Social System*, Free Press, 1951, pp. 1-25.

⑧**外国語編書**：編者名 ed.,_*書名*,_出版社名,_出版年,_ p.+引用頁.

※編者が複数いる場合は併記して「eds.」とする

例）

Camagni, R. ed., *Innovation Networks: Spatial Perspectives*, Belhaven Press, 1991, p.30.

⑨**外国語編書の一部**：著者名,_“論文名,”_編者名_ed.,_*書名*,_出版社名,_出版年,_pp.+論文の初頁-終頁(p.+引用頁).

例）

Beck, U., “Self-dissolution and Self-endangerment of Industrial Society: What Does This Mean?,” Beck, U., Giddens, A. and Lash, S. eds., *Reflexive Modernization: Politics, Tradition and Aesthetics in the Modern Social Order*, Blackwell, 1994, pp.174-183 (p.175).

⑩**外国語雑誌論文**：著者名,_"論文名,"_*雑誌名*_巻(号),_出版年,_ pp.+論文の初頁-終頁(p.+引用頁).

例）

Wrong, D. H., “The Oversocialized Conception of Man in Modern Sociology,” *American Sociological Review* 26, 1961, pp.183-193 (pp.183-184).

⑪**年次刊行物**：編集機関名『題名』年次，p.+引用頁.

例）

経済企画庁『国民生活白書』平成 6 年版，p.101.

⑫**新聞**：「記事名」『新聞名』（年月日朝刊 or 夕刊）.

例）

「14 歳『心の闇』」『朝日新聞』（1998.6.30 朝刊）．※執筆者名が明らかな場合は⑤⑥に準じる。

⑬**インターネット上の情報**： 著者名（判明する限り），最終更新年（判明する限り）,「題名」（URL）閲覧年月日+閲覧.

例）

日本社会学会，2006,「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」（http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/shishin.pdf）2017.2.9 閲覧.

例）

「明治学院大学社会学部」（http://soc.meijigakuin.ac.jp/）2017.2.10 閲覧.

Ⅱ. 簡略情報を表示する方式

(1)基本的な考え

①引用・参照した文献の書誌情報を示す「簡略情報」を本文中に埋め込み、それに対応する「参考文献一覧」を文末に載せる。

②注は、原則として、説明注（本文の補足説明）としてのみ用い、文献注としては用いない（ただし例外あり）。

(2)実際の手順

手順 1：簡略情報「（著者の姓_出版年:_引用ページ）」を文中に埋め込む（※「_」は半角スペース）

・・・そこで哲学者のエヴァ・フェダー・キテイは、互恵性を拡大した社会的協働として「ドゥーリア」(1) という原理の導入を提唱する。これは、「私たちが人として生きるためにケアを必要とするのと同時に、私たちは、他の人々――ケアの仕事をする人々を含む――が生きるのに必要なケアを受け取れるような条件を提供する必要がある」という原理である（キテイ 2010: 244）。そしてこの原理は、「ケア提供者(care-givers)とケア享受者(care-receivers)のウェルビーイングがともに社会関係のネットワークのもとで成立する」ことを前提とする (2)。

ただし、保育や医療の現場では、ケア提供者とケア享受者は必ずしも社会的協働の関係にはない（Kittay 2001; 岡野 2012）。2016 年 3 月 13 日の朝日新聞の記事 (3) では、朝日新聞デジタルのアンケート調査（回答数 436）を元に次のような結果が報告されている。すなわち・・・

手順2：論文もしくはレポートの末尾に注と参考文献表をつける

注

（1）「ドゥーリア（doulia）」とは、出産後、はじめて赤ん坊を世話することになる母親をサポートする人を指す「ドーラ(doula)」をアレンジしたキテイによる造語である（キテイ 2010:158）。

（2）この点については、次の解説に詳しい。Sander-Staudt, M., "Care Ethics," The Internet Encyclopedia of Philosophy (http://www.iep.utm.edu/care-eth/), 2017.01.24 閲覧.

（3）「最期の医療、どう決める？」『朝日新聞』（2016.3.13 朝刊）.

参考文献（日本語）

岡野八代, 2012, 『フェミニズムの政治学』みすず書房.

キテイ, E.F., 2010,『愛の労働あるいは依存とケアの正議論』（岡野八代・牟田和恵監訳）白澤社.

参考文献（外国語）

Kittay, E.F., 2001, When Caring Is Just and Justice Is Caring: Justice and Mental Retardation, *Public Culture,* Volume 13, Number 3, pp.557-579.

補足：①日本語文献は姓の50音順、外国語文献は姓のアルファベット順とする。同一著者の場合は出版年順とする。同一著者で出版年が同じ書籍の場合は、「（山田 1996a: 95）」「（山田 1996b: 103）」などと、出版年にabc…をつけて区別する。

②著者が 2 名以上の場合は、「・」でつなぐ。3 名以上いる場合は、2 人目以下を「他」として省略してよい。なお、手順 2 で説明する参考文献表内では省略しない。

③新聞記事などで著者名が不明な場合は、本文中に簡略情報を記すことが困難なので、方式 I と同じように文献注を使ってもよい（上記「手順 2」の「注(2)」および「注(3)」参照）。

(3)文末の参考文献一覧表の中での文献情報表示形式

※著者が複数いる場合、記載された順に書く

※全体の内容を参考にした場合は、引用頁の記載は要らない

※該当頁は「p. ○」または「pp. ○-○」（複数頁にまたがる場合）と表記する

①**日本語単行本**：著者名，出版年,『書名：副題』出版社名.

例）

小熊英二，1995,『単一民族神話の起源：〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社.

長谷川公一・浜日出夫・藤村正之・町村敬志，2007,『社会学』有斐閣.

②**日本語編書全体**：編者名+編，出版年,『書名』出版社名.

例）

舩橋晴俊編，2001,『講座環境社会学 2：加害・被害と解決過程』有斐閣.

③**日本語編書の一部**：著者名，出版年,「章題名」編者名+編『書名』出版社名，pp.+章の初頁-終頁.

例）

舩橋晴俊，1998,「環境問題の未来と社会変動：社会の自己破壊性と自己組織性」舩橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学 12：環境』東京大学出版会，pp.191-224.

④**翻訳書**：著者名，翻訳の出版年,『訳書名』（訳者名+訳）出版社名.

※著者名は、ファミリーネーム，ファーストネーム・ミドルネームのイニシャル.の順

例）

フロム, E.，1951,『自由からの逃走』（日高六郎訳）東京創元社.

⑤**日本語雑誌論文**：著者名，出版年,「論文題名」『雑誌名』巻(号)，pp.+論文の初頁-終頁.

例）

山本泰，1993,「マイノリティと社会の再生産」『社会学評論』44(3)，pp.262-281.

⑥**翻訳論文**：著者名，翻訳論文の出版年,「翻訳論文の題名」（訳者名+訳），論文の所収された雑誌や単行本の情報（①～⑤参照），pp.+論文の初頁-終頁.

例）

マッカーシー, J. M.・メイヤー, N. Z.，1989,「社会運動の合理的理論」（片桐新自訳），塩原勉編『資源動員と組織戦略：運動論の新パラダイム』新曜社，pp.21-58.

⑦**外国語単行本**：著者名,_出版年,_*書名*,_出版社名.

※「_」は半角スペース

例）

Parsons, T., 1951, *The Social System*, Free Press.

⑧**外国語編書**：編者名 ed.,_出版年,_*書名*,_出版社名.

※編者が複数いる場合は併記して「eds.」とする

例）

Camagni, R. ed.,1991, *Innovation Networks: Spatial Perspectives*, Belhaven Press.

⑨**外国語編書の一部**：著者名,_出版年,_“論文名,”_編者名 ed.,_*書名*,_出版社名,_ pp.+論文の初頁-終頁.

例）

Beck, U., 1994, “Self-Dissolution and Self-Endangerment of Industrial Society: What Does This Mean?,” Beck, U., Giddens, A. and Lash, S. eds., *Reflexive Modernization: Politics, Tradition and Aesthetics in the Modern Social Order*, Blackwell, pp.174-183.

⑩**外国語雑誌論文**：著者名,_出版年,_“論文名,”_*雑誌名*_巻(号),_ pp.+論文の初頁-終頁.

例）

Wrong, D. H., 1961, “The Oversocialized Conception of Man in Modern Sociology,” *American Sociological Review* 26, pp.183-193.

⑪**年次刊行物**：編集機関名，出版年,『題名』年次.

例）

経済企画庁，1994,『国民生活白書』平成 6 年版.

⑫**新聞**：「記事名」『新聞名』（年月日朝刊 or 夕刊）.

※執筆者名が明らかな場合は明記する。電子版の新聞記事の場合は、⑬に準じる。

例）

「14 歳『心の闇』」『朝日新聞』（1998.6.30 朝刊）.

⑬**インターネット上の情報**：著者名（判明する限り），最終更新年（判明する限り），「題名」（URL）閲覧年月日+閲覧.

例）

日本社会学会，2006,「日本社会学会倫理綱領にもとづく研究指針」（http://www.gakkai.ne.jp/jss/about/shishin.pdf）2017.2.9 閲覧.

例）

「明治学院大学社会学部」（http://soc.meijigakuin.ac.jp/）2017.2.10 閲覧.

Ⅲ. 引用時の諸注意

(1)直接引用

元著者の表記を尊重し、誤字があっても、最大限原文通りに記載する。ただし、引用文中にカッコが用いられている場合、引用文中のカッコは引用を示すカッコ（「」）と区別するため二重カッコ（『』）に変更する。

(2)名前の表記法

Ⅱで説明した文献の簡略情報を表示する際以外に本文中に記載する人の名前は、初出のときは姓名を書き、2度目以降は姓のみでもよい。一般的に、敬称（先生、教授、博士など）は付けない。

(3)インターネット上の情報

不特定多数の人間によって頻繁に更新されるもの（例えば Wikipedia）や掲示期間の短いもの（新聞のネット記事等）は引用に適さない。

(4)孫引き

A という著者の文章を引用した B という著者の文章に基づいて、A の文章をレポート・論文の中で引用すること（孫引き）は原則として避けるべきである（原典に当たることが望ましい）。やむをえない場合は、注で両者の関係を明確に示す。

社会学科生のための学びのガイド　2025

2025 年 4 月 1 日発行

編集・発行　明治学院大学社会学部社会学科
〒108-8636 東京都港区白金台 1-2-37